



子どもを健やかに育むために・・・

子育てをしていると、子どもが言うことを聞いてくれなくて、イライラすることがあります。最初は冷静に話しても、「ぜんせんわかっていないんじゃないの?」とか「何度も言ったら通じるのよ・・・」と、つい感情的になって怒鳴ってしまうこともあります。こういった、言葉による脅し、威嚇、罵倒、あるいは無視する、放っておくなどの行為、つまり、「虐待とまでは言い切れないけれど、大人から子どもに対する良くない関わり」のことを、『マルトリートメント(maltreatment)』と呼びます。『マル(困った)・トリートメント(扱い)』で、日本語では『不適切な養育』と訳されています。

大人側の意図に関係なく、行為そのものが不適切であると思われる行為、例えば子どもへの過干渉や、子どもの前で繰り広げられる激しい夫婦喧嘩なども、マルトリートメントと見なされます。さらに、「放任主義」という言葉を、子どもに自由を与える慣用的な教育方針として見ることがあります。子ども自身

が自分の力で安心・安全な環境を保てないからは、大人が責任も持つて子どもを守る義務があると考えられますので、場合に



子どもと向い合うポイント

Point 1

子育てに

体罰や暴言を使わない

一見効果があるように思われますが、子どもは恐怖によって行動しています。自分で考えて行動した姿ではありません。

Point 2

子どもが親に恐怖を持つと

SOSが伝えられない

親に気に入られるように、親の顔色を見て行動するようになります。また、恐怖を持つ親に対しては、心配ごとを打ち明けられなくなります。また、親のことを心配する子どもも同様です。

Point 3

爆発寸前の

イライラをクールダウン

子どもが言うことを聞いてくれない時に、イライラすることは誰にでもあります。しかし、疲れて、もともと抱えているストレス度が大きいと、子どものちょっとした行動をきっかけにイライラが爆発してしまうことがあります。

クールダウンする自分なりの方法を見つけておきましょう。

Point 4

親自身がSOSを出そう

子育てを一人で抱え込んでしまう「孤育て」になってしまふと、ストレスフルになります。家族に分担してもらったり、支援サービス利用の検討を視野に入れたりするのもいいかもしれません。子育ての苦労を分かり合える友だちもできるといいですね。

Point 5

子どもの気持ちと行動を

分けて考え、育ちを応援

子どもは大人のミニチュア版ではありません。まだ成長途上であることを意識していないと、つい言うことを聞かせようとして、必要以上に強い指示を与えたり、逆に甘やかしたりしがちです。

子どもの気持ちに寄り添いながら、前向きに育んでいきましょう・・・。